

# 国内の動き

## 小峯秀雄会員「平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）」を受賞

小峯秀雄会員（茨城大学）が平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）を受けられました。所属大学はもちろん学会においても喜ばしい快挙だと思います。

受賞対象になった研究は、同会員が長年にわたり研鑽をつままれてきた放射性廃棄物処分施設における「ベントナイト系遮水材の膨潤及び透水特性の実験と理論の研究」と題するものです。

本研究において小峯秀雄会員は、これまで評価が極めて難しかった膨潤性粘土のベントナイトの挙動評価に成功しました。ご承知のように、膨潤性粘土は、土木工学、地盤工学においては、地すべりなどの原因と考えられ、たびたび災害を誘引するものとされてきましたが、化学的要因が影響するため、力学を中心とした学問体系であるこれまでの地盤工学の知識では、その挙動評価が困難とされてきました。小峯会員が新たに開発・提案した膨潤特性と透水係数に関する理論評価式（図-1参照）は、地盤工学の範疇に捉われず、土壌物理学や粘土科学という学問分野の知見も取り入れており、従来の学問分野に新しい領域の先駆的な開拓につながる貴重な成果と考えられます。また、提案された成果は理学と工学を融合した画期的な成果と言えますが、緩衝材の設計に直接利用できるという点で、しっかりと工学的有用性を持ったものとなっております。さらには、人類が直面している放射性廃棄物処分の地層処分技術に直接、応用できる点でも、その成果は大きく社会に貢献できるものです。

このような小峯会員の研究成果は、産業廃棄物処分場建設においても直接利用でき、地盤工学の新しい学問分野である「環境地盤工学」の中心的な課題として位置づけられております。最近では国内外の研究機関においても、ベントナイトに関する研究が活発に行われています

が、なかでも小峯会員の一連の研究は斯界のパイオニア的研究と高く評価されており、その成果は数多くの論文に引用されております。

同会員の研究は同会員が電力中央研究所に所属されていたときに始められた研究ですが、当初は、必ずしも、望んで始めた研究ではなかったと述懐されています。しかし、周囲の温かい理解と共同研究者の力強い支えに加えて、持ち前の前向きで積極的な姿勢で緻密な実験と理論を駆使して他の追随を許さない画期的な成果を蓄積され、国際的にも斯界の第一人者になりました。

同会員のたゆみない研鑽と輝かしい成果に敬意を表するとともに、今後のますますのご活躍をお祈りしてここに紹介させていただく次第です。

（文責：安原一哉 茨城大学教授）



写真-1 平成20年 4月15日授賞式

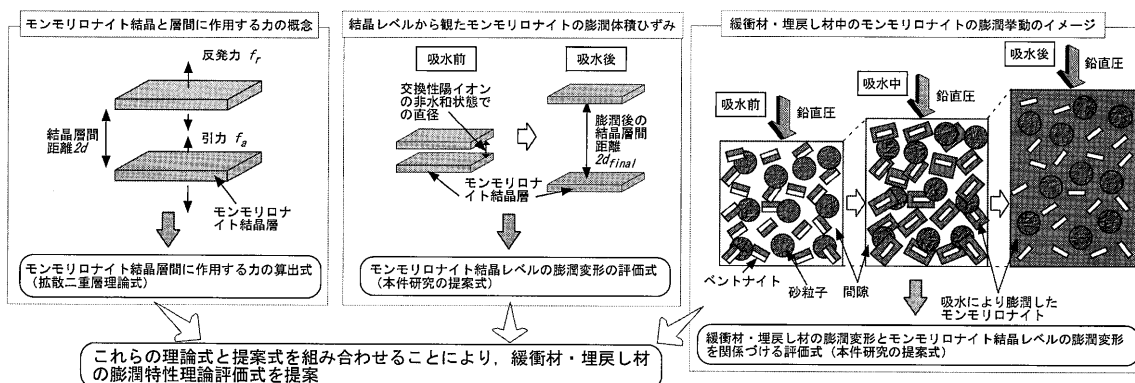


図-1 膨潤特性理論評価式の概要